

みね健幸百寿プロジェクト令和5年度報告会

プロジェクトA Part2 小中学生のがん教育 (実践報告)

看護栄養学部 吉村眞理 高田千鶴
美祢市健康増進課 末永直美 山野井理紗

背景と目的

背景

- がん対策推進基本計画（第3期→第4期）
→ がん対策の推進を支える基盤としての「がん教育及びがんに関する知識の普及啓発」
- 小中学校の学習指導要領に位置づけられた
→ 外部講師活用によるがん教育の推進（文科省）
- がんの罹患率の高さ（2人に1人ががんになる時代）⇔ がん検診の受診率の低さ



目的

1. 美祢市における小中学生へのがん教育の普及
→がんについて正しく理解することができる
→健康と命の大切さについて主体的に考えることができる
2. LPM（Learning Partner Model）の考え方を活用した家庭への教育効果の波及効果
→がんについて正しく理解し、適切に対処できる
→検診受診行動の促進（がん検診の受診率の向上）

がん教育の目標

①がんについて正しく理解することができるようにする

がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心を持ち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。

②健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする

がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

出典：学校におけるがん教育の在り方について報告 平成27年3月「がん教育」の在り方に関する検討会

実施計画

令和3（2021）年度

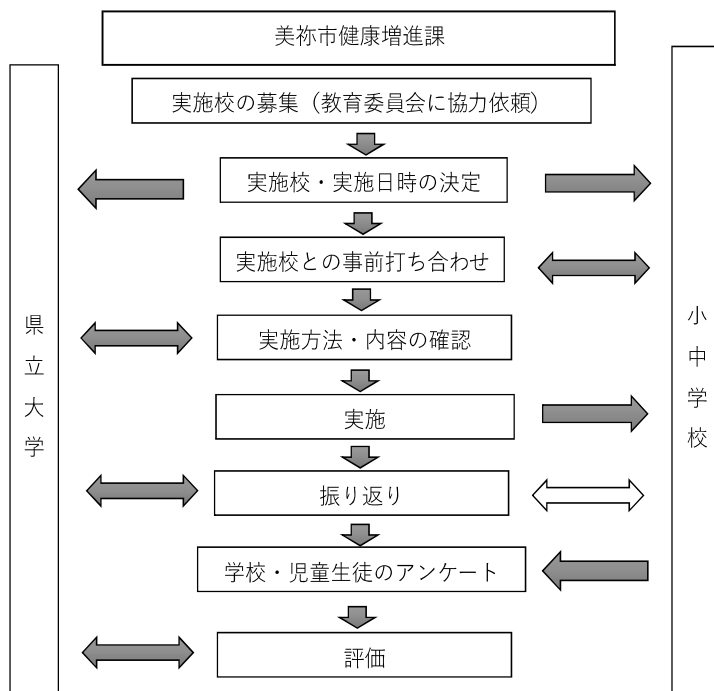
- ①美祢市版の指導案・教材の作成
- ②大学による出前講義

令和4（2022）年度

大学による出前講義（一部公開授業）

令和5（2023）年度

- ①大学による出前講義
→ 全小中学校で少なくとも1回は実施
- ②健康増進課保健師と教諭・養護教諭との
チームティーチングの指導案の作成
授業の実施
- ③指導用教材の配布



プロジェクトA part2 担当者

年度	県立大学		美祢市健康増進課 (保健師)	
	リーダー	サブリーダー		
令和3	田中 マキ子	吉村 眞理	杉原 博子	三浦 仁美
令和4	吉村 眞理	中谷 信江	末永 直美	大庭 典子
令和5	吉村 眞理	高田 千鶴	末永 直美	山野井 理紗

※敬称略

令和5年度 チームティーチング 実施者

実施校	授業担当者			
	学校		美祢市健康増進課	
豊田前小学校	養護教諭	恵藤 由佳	保健師	山野井 理紗
厚保中学校	教諭 (保健体育)	藤野 照明	保健師	末永 直美
大嶺中学校	教諭 (保健体育)	藤村 直樹	保健師	末永 直美

※敬称略

結果

プロジェクトによるがん教育の実施状況 (令和3～令和5年度)

年度		令和3(2021)	令和4(2022)	令和5(2023)
小学校 (11校)	伊佐		5・6年生25名・保護者15名 学校保健委員会を実施(中谷)	指導教材の配布
	厚保		3・4年生11名(中谷)	指導教材の配布
	大嶺			6年生66名(吉村)
	麦川			
	於福	3・4年生12名(田中マ)	5・6年生19名・保護者12名 学校保健委員会を実施(中谷)	指導教材の配布
	豊田前	5・6年生7名(吉村)		5・6年生12名(恵藤・山野井)
	大田		3小学校合同で実施 6年生30名(吉村)	指導教材の配布
	淳美			6年生9名(吉村)
	綾木		3～5年生9名(中谷)	指導教材の配布
	秋吉	6年生11名(吉村)		指導教材の配布
秋芳桂花			6年生12名(吉村)	
(中学校 5校)	伊佐		2・3年生20名(吉村)	指導教材の配布
	厚保	2年生12名(吉村)	2年生10名(吉村)	2年生13名(藤野・末永)
	大嶺	2年生70名(田中マ)		2年生74名(藤村・末永) クラス別に2回実施
	美東			2・3年生60名(吉村)
	秋芳	2年生21名(田中マ)		指導教材の配布

※学校名は「美祢市立」および「小学校・中学校」を省略している

※於福中学校は2021年度末に閉校したため表から削除している

結果:作成したTT用教材（パワーポイント）



美祢市のキャラクターを活用したパワーポイント

結果 終了後のアンケート結果

児童・生徒

- ▶ 生活習慣を整える
食事・運動・睡眠・飲酒・喫煙
- ▶ 定期的ながん検診の受診
- ▶ 家族に伝えたいこと
お酒・運動・喫煙
検診が大切なので行ってほしい

教員（学校）

- ▶ わかりやすかった
- ▶ 発達段階にあった内容であった
- ▶ 自分の考えを付箋に書き出すことができている
→関心をもっていた
- ▶ グループワーク、ペアワークで話し合いながら考えることができていた
- ▶ 住みます芸人さんの参加についての賛否

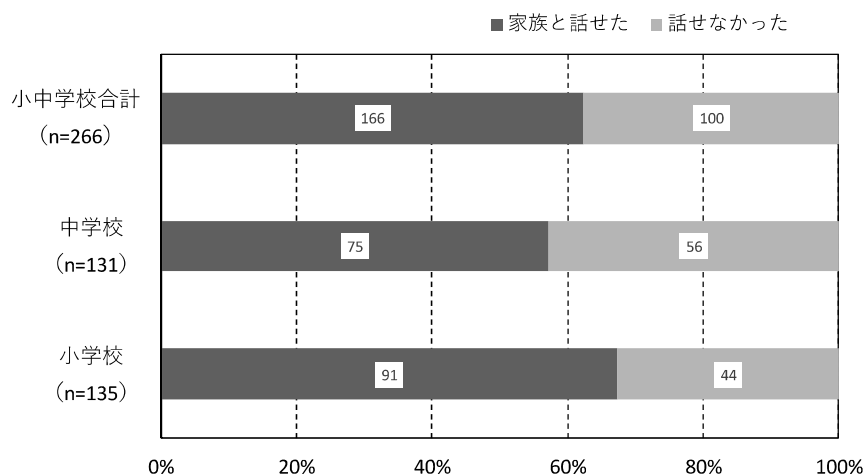
- ▶ 継続希望
- ▶ 事前打ち合わせの充実
- ▶ 児童・生徒が考えることができるワークの充実

保護者※

- ▶ 山口県のがん検診の受診率の低さに驚いた→健診の大切さを実感
- ▶ 生活習慣について親も気を付けたい

※ 学校保健委員会参加者

結果 授業終了後の家族への伝達状況（令和4-5）



3年間の評価

【ストラクチャー・プロセス評価】

- ほぼすべての小中学校で美祢市版の「がん教育」を実施することができた。
- 令和5（2023）年度には、健康増進課保健師と小中学校の教諭・養護教諭とのチームティーチングの指導案の作成、実施ができた。
- 事前の打ち合わせを行うことで、問題なく実施することができた。

【アウトプット評価】

- 児童・生徒ががんを正しく理解し、がんになりにくくするための生活習慣と早期発見のためのがん検診の重要性を知り、これからの自分の行動についてことばにすることができた。
- 授業終了後、がんの予防のための生活習慣の見直しやがん検診受診の大切さについて、家族に伝えたいと考えることができた。
- 約6割の児童生徒が、授業終了後、家族と話すことができていた。
- 学校のがん教育に対するより積極的な取り組みにつながった（継続的に実施・教材配布希望）。

【アウトカム評価】

- 現時点で、家族や児童生徒の行動変容（がん検診の受診率の向上、がん罹患率の低下）に対する評価できない

今後の課題と取り組み

- 教諭・養護教諭とのチームティーチングの経験を踏まえて美祢市版の教材のブラッシュアップ
- 文科省が示す「がん教育の目標」の2つ目の後半部分「がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気付き、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。」の教育の充実
 - 美祢市の小中連携教育を前提として、「知識教育」と「道徳教育」のバランスを検討していく必要がある
がん経験者等のお話をどの段階でどう位置付けるか
- 授業終了後、学習内容を家族と共有するための仕掛け・教材の充実
 - 保護者の知識や認識の変容は、児童生徒による学習による思考力、判断力、ひいては表現力が表出したことの結果である
 - がん教育としての評価

参考文献

- 文部科学省；がん教育のための教材 補助教材。
https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/1385781.htm
(2023/03/06閲覧)
- 「がん教育」の在り方に関する検討会；学校におけるがん教育の在り方について報告，平成27年3月。
- 文部科学省；外部講師を活用したがん教育ガイドライン，平成28年4月（令和3年3月一部改訂）。
- 京都府立医大150周年がん教育京都モデルを考える会：がん教育の現状とこれから～理想のがん教育を目指して，2021。
<https://www.jst.go.jp/sis/scienceagora/2021/session/04-b15.html>
(2023/03/06閲覧)
- 助友裕子；健康教育からヘルスプロモーション活動を推進するLearning Partner Modelーがん教育・普及啓発の事例ー，日健教誌，26（1），93-99，2018。